

## 第 10 回県民健康フェア



理事 稲富 仁



第 10 回県民健康フェアが令和 5 年 10 月 1 日（日）沖縄コンベンションセンター展示場にて開催された。県下の医療福祉関係 17 団体が参加する沖縄県医療保健連合（なごみ会）と公益財団法人沖縄県保健医療福祉事業団が共催した。長期にわたる新型コロナウイルス感染症の流行により、今回は 4 年ぶりに開催することが出来た。

開会式では沖縄県医療保健連合 安里哲好会長と公益財団法人沖縄県保健医療福祉事業団 儀間秀樹専務理事から主催者挨拶、沖縄県保健医療部 系数公部長より来賓挨拶が行われた。

安里哲好 沖縄県医療保健連合会長  
（沖縄県医師会）



当フェアは「健康おきなわ 21」の基本理念「県民が健康長寿を維持継承し、生きがいに満ちた豊かな人生を送ることが大切である」に基づき、各団体の専門とする医療、健康に関する催しを、毎年合同で行う県内最大のイベントである。

コロナ禍の 3 年間で県民の健康状態の動向を危惧していたところ、昨年 12 月に厚生労働省が発表した 2020 年の都道府県別平均寿命において、本県は男性が 36 位から 43 位、女性も 7 位から 16 位と大きく後退した。また、沖縄労働局の発表においても、職場の定期健康診断で何らかの異常が見つかった「有所見率」は、全国平均の 58.3% を大きく上回る 72.1% と、12

年連続で全国ワーストという厳しい現状である。とくに「血中脂質」や「血压」、「肝機能」の有所見率は高く、これ等を早期に治療につなげ、重症化予防に取り組んで行くことが喫緊の課題である。

さらに、65歳未満の働き盛り世代においては、「高血圧性関連疾患」、「自殺」、「大腸がん」等が死亡の上位を占め、死亡率・健康状態の悪化が極めて深刻である。このような状況を改善し、健康長寿県復活を成し遂げるためには、地域全体での意識改革と継続的な取り組みが鍵となる。

今回は「あなたの健康はみんなの幸せ 一身も心も健やかに」をテーマに、当フェアを機に県民の皆さんお一人おひとりが、ご自身の健康について深く考えてもらいたく、様々なブースを展開している。各種健康相談や体験コーナー、スタンプラリー抽選会等も準備しており、ご家族そろって健康づくりに取り組んで頂ければ幸いです。

我々「なごみ会」としても、今後とも県民の保健・医療・福祉を全力でサポートして参りますので、全県民が健康的な生活が送れるよう、県民一丸となって頑張ろう。

**儀間秀樹 沖縄県保健医療福祉事業団 専務理事**



私ども沖縄県保健医療福祉事業団は、県民の健康増進に寄与するため設立された公益財団法人で、健康づくり事業を中心に、県内の保健、医療、福祉に関連する様々な事業を行っている。

さて、令和5年5月より新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に移行され、基本的な感染対策のあり方は、県民の皆さまの自主的な取り組みをベースにしたものとなり、日頃の健康づくりへの取り組みは益々、重要性が高まったものとする。それと同時に、健康づくりという言葉のもつ意味や捉え方も、より高度で多

様なものへと変化しつつあり、その変化への対応も必要である。人生100年時代という言葉があるが、いつまでもいきいきと元気な生活を送っていくため健康寿命を延ばす取り組みこそが、これからの時代の健康づくりの要であり、健康長寿復活を掲げる沖縄県においても、喫緊の課題である。

本イベントは、沖縄県内でご活躍されている各専門医療団体が合同でブースを出展し健康相談や、様々な体験が出来る大変貴重な機会となっている。本日のイベントがご来場の皆様の健康づくりに役立ち、沖縄県の健康長寿の復活に繋がることを祈念するとともに、イベント開催にご尽力くださいました関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

**糸数公 沖縄県保健医療部長**



2020年より県内で流行が拡大した新型コロナウイルス感染症は、本年5月から5類感染症への位置づけ変更となったが、本日お集まりいただいた各医療関係団体の皆

様におかれては、この間、昼夜を問わず、ご尽力いただき、厚く御礼を申し上げます。

並びに、約4年ぶりに「なごみ会」を構成する17団体が一同に会し、健康寿命の延伸に役立てようと、「県民健康フェア」が開催されることを、心よりお喜び申し上げます。

沖縄県の平均寿命は令和2年に男性が80.73年、女性が87.88年と5年前の平成27年から男女とも伸びてはいるものの、全国順位では男性36位から43位、女性は7位から16位へと順位を下げている、その要因として20歳から64歳の年齢調整死亡率が他県よりも高い値で推移していることが影響しているものと考えている。

また、沖縄労働局から発表された県内事業所の定期健康診断の有所見率は、12年連続で全国最下位という結果になるなど、改めて働き盛

り世代の健康課題への取組が重要であることが認識されたところである。

県では、健康長寿復活に向けて、2040年までに男女とも平均寿命日本一を目指した健康づくりの取組を強化し、アルコール対策やがん検診等に関する広報活動、小中学校における健康づくり副読本の活用の推進を行うとともに、医療、行政、経済団体等で構成する「健康長寿おきなわ復活県民会議」を設置し、官民一体となった施策を推進している。

また、県内の事業所や地域における健康づくりの好事例を広く紹介することで、健康づくりの実践を促すことを目的とした「沖繩県健康づくり表彰制度（がんじゅうさびら表彰）」を実施するほか、中小企業における従業員の健康づくりに対する助成や健康経営の普及啓発等を行う「職場の健康力アップ推進事業」を行っている。

このような中、県民健康フェアにおいては、「あなたの健康はみんなの幸せ ー身も心も健やかにー」がテーマとされた。コロナ禍においては、個人の健康状態が、身近なまわりの人の健康に大きく影響を与えたことは、県民一人一人が痛感したのではないかと。

本日は各医療関係団体が、その専門性に応じた様々なブースイベントを用意されているとお聞きしており、日頃からの食生活の改善や身体活動の増進等に取り組む良い機会になるなど、県民の健康増進に寄与するものと期待している。

その後、日本健康運動指導士会沖繩支部による健康体操（Let's プチ体操）が行われた。県民に馴染みのあるエイサーやカチャーシーの動きなどを取り入れた楽しい体操で、座ったままでも参加できるよう工夫されていた。来場者及びなごみ会メンバーも多くの方が参加され、

## プログラム

### ステージイベント

開会式	内 容
12:00~12:10	挨拶：安里 哲好（沖繩県医師会会長・沖繩県医療保健連合会長・沖繩県保健医療福祉事業団 理事長） ：儀間 秀樹（沖繩県保健医療福祉事業団 専務理事） 来賓祝辞：永敷 公（沖繩県保健医療部長）
12:15~12:30	沖繩 Let's プチ体操（日本健康運動指導士会沖繩県支部）

### ブースイベント

団体名	内 容
① 沖繩県医師会	①おきなわ津梁ネットワークを活用した保健指導（健康保険証をご持参ください） ②AED・心肺蘇生体験 ③パネル展示 ④65歳未満健康・死亡率改善プロジェクト啓発コーナー（名桜大学ヘルサポーター学生たちによる測定項目：身体組成・血管年齢・血圧測定・AGES（糖化））
沖繩県歯科医師会	①Doチェックプログラムによる保健指導（お口をあけず質問にタッチで答える歯科健診） ②あなたの唇の力は？（口唇力測定） ③在宅歯科・障害者歯科診療相談コーナー ④お口の細菌観察コーナー
② 沖繩県歯科衛生士会	①口腔ケア相談コーナー（乳幼児期～老年期） ②歯科用グッズ展示・パネル展示 ③知って得する妊婦のむし歯予防、歯周病予防 ④フッ素洗口体験 ⑤咬合力テスト
沖繩県歯科技工士会	①かぶせもの、入れ歯などの補綴物相談コーナー
③ 沖繩県薬剤師会	①健康チェックとおくすり相談会 ②（こども向け）調剤体験と楽しい実験 ③かかりつけ薬剤師・健康サポート薬局・地域連携薬局・専門医療機関連携薬局について ④薬剤師の仕事について（パネル展示）
④ 沖繩県看護協会	①健康チェック・骨密度・血管年齢・ベジチェック ②高齢者の疑似体験と握力測定 ③AEDの正しい使い方 ④妊産婦のこころと体（産後うつ予防・コロナ対策） ⑤パネル展示・沖繩の健康課題について（早世率、メタボ率、働き盛り世代の有所見状況等）
⑤ 沖繩県栄養士会	①フードモデルを活用した、パソコンによる食事バランスチェック（SATシステム） ②栄養相談 ③パネル展示

### ブースイベント

団体名	内 容
⑥ 沖繩県臨床検査技師会	①頭動脈エコー検査（先着100名） ②臨床検査展 ・ミクロの世界体験（血液細胞・がん細胞） ・手洗いの効果判定体験、血液型について
⑦ 沖繩県放射線技師会	①骨密度測定検診（無料） ②放射線被ばく医療における各種検査に関する相談
沖繩県理学療法士協会	①体力測定➡（認知症予防・腰痛・転倒予防）等体操 ②結果の振り返り➡セルフチェック（ハンドブック活用：随時対応） ③パネル展示 生き百、スクエアステップ、シルリハ、メタボ、ロコモ、肩・腰・膝、PTの役割、PTの活躍の場 ④相談コーナー
⑧ 沖繩県作業療法士会	①パネル展示 ②自助具展示および体験コーナー ③なんでも相談コーナー
沖繩県言語聴覚士会	①相談：飲み込み、聞こえ、言葉、子どもの発達等に関して ②展示：パネル、嚥下食 ③体験：聴力検査、嚥下食試食、嚥下食作成（とろみ水等）
⑨ 沖繩県柔道整復師会	①パネル展示（ボランティア活動） ②整（接）骨のかかり方 ③テーピング、手技、実技
⑩ 沖繩県鍼灸師会	①鍼灸治療の効果を知りやすくしたパネル展示 ②鍼灸治療を知ってもらうための簡単な鍼灸体験
沖繩県医療ソーシャルワーカー協会	①医療ソーシャルワーカーの職能紹介 ②入退院支援連携・命を守るためのクイズ ③沖繩県における入退院支援連携に関する基本的な心得について
⑪ 沖繩県精神保健福祉士協会	①精神保健福祉士の職能紹介 ②精神保健福祉及び医療に関する相談 ③幻覚のバーチャル体験 ④ストレスチェック
⑫ 日本健康運動指導士会 沖繩県支部	①体力測定（1～3項目程度） ②体力測定結果と体組成計に基づく運動相談 ③様々な健康体操の体験（集団指導）

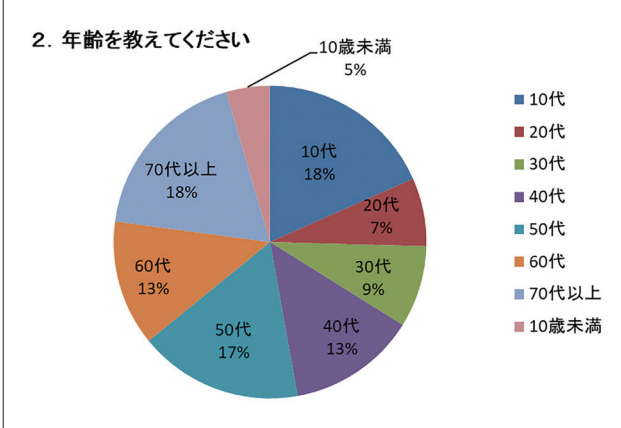
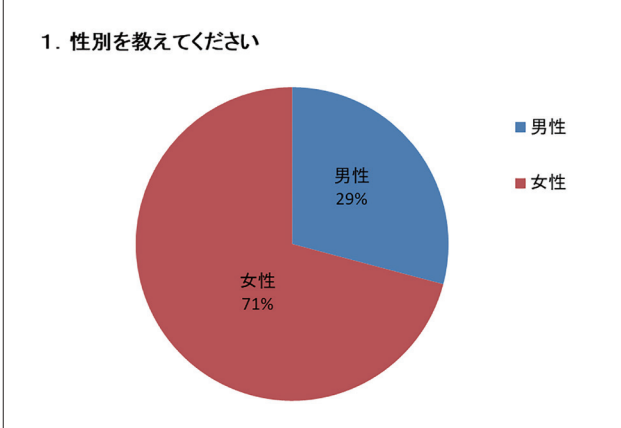
フェアの幕開けとなった。今回の来場者数は約800名であり前回（令和元年）の1,000人と比べ若干少なかった。当日はかなり気温や湿度が高いなか、隣の宜野湾海浜公園では第46回宜野湾はごろも祭りが開催されており、そこから涼みに来ていた方もおり、熱中症対策にもなったのではないと思われる。

例年同様、なごみ会の全ての団体が、各々の専門性の特徴を生かしたブースを設営し、機器やポスターなどを活用し、職種への理解及び健康への興味関心を高めてもらうように工夫されていた。このところの物価高騰などの影響もあり、前回より少し節約して子供向けの職業体験は行わなかったが、5か所のブースを回り健康関連グッズなどが貰えるスタンプラリーには大勢が参加されていた。

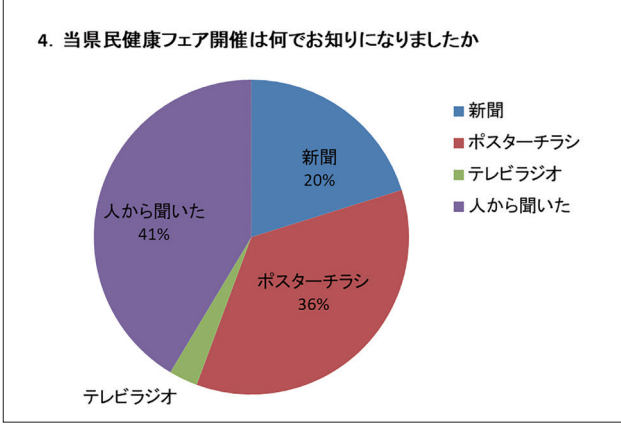
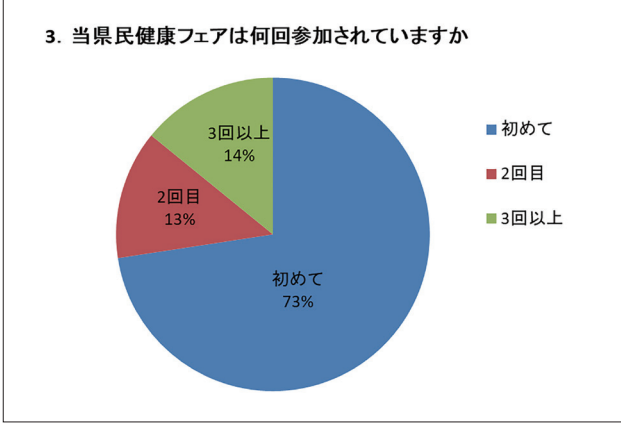
医師会ブースではおきなわ津梁ネットワークの説明及びその場での登録、医師による健康相談、心肺蘇生法の講習・体験、名桜大学ヘルスサポートの学生による血圧測定・骨密度・糖化度・体組成などの測定が行われた。今回も隣のブースである検査技師会で行われた頸動脈エコー検査コーナーは無料で受けられることもあり大人気であった。その検査のなかの有所見者を医師会ブースに繋がれた方や、その他の相談を含め約30人の健康相談を行った。健康相談は久貝忠男先生（県立北部病院）と私（稲富仁）が担当した。心肺蘇生演習では出口宝先生（もとぶ野毛病院）を中心に心肺蘇生の基本及びAEDの使用方法の実践など交えて説明され、47名が参加された。名桜大学の学生さんたちにも医師会の緑色のポロシャツを着用してもらい一体感があるブースとなり、健康度測定には167名が参加された。

**参加者からのアンケート結果（集計数 362 件）**

性別は女性が7割であった。健康関連イベントへの参加は高齢者が多い傾向が見られるが、今回のフェア参加者のうち20代から60代の方が約60%であり、働き盛り世代の方も少なくなかった。



また初回参加の人が73%。口コミで来場された方が41%と多かった。



体験コーナーや種々の検査を受けることが出来て健康を見直すきっかけになったというご意見や待ち時間が長すぎるなど改善すべきご要望が寄せられた。全体的評価としては91%の方がフェアについて良かったと回答された。

4年ぶりの開催であったが、皆様のご協力により無事フェアを終えることが出来た。

関係者各位、並びに当日ご協力いただいた皆様に心から御礼申し上げます。

また、会員並びに関係機関、各企業より協賛広告並びに協賛金、ブース出展、協賛品提供など多くのご協力を賜りましたことに感謝申し上げます。

次年度の県民健康フェアは、令和6年9月15日(日)の12:00～16:00、沖縄コンベンションセンター展示棟にて開催予定となっております。来年度のフェアにつきましても皆様のご協力を何卒よろしくお願いいたします。

## 各ブースの催し物・会場風景



沖縄 Let's プチ体操



気道確保の説明(沖縄県医師会)



AED・心肺蘇生体験(沖縄県医師会)



医師による健康相談(沖縄県医師会)



名桜大学ヘルスサポートによる健康測定(沖縄県医師会)



体力測定(日本健康運動指導士会 沖縄県支部)